



通常総会で三国登山の報告をする大塚副会長

昭和六十三年通常総会を開催するに当りまして一言ご挨拶申し上げます。

昭和本日はご多用中にも拘りませず、ご出席を頂いて有難うございます。

昭和六十三年度の通常総会は五月二十日(金)午後六時から例年行なわれている私学会館(東京都千代田区九段北四二二五)三階富士の間で開催された。開会にあたりまず、今西寿雄会長より次のような挨拶があった。

(今西会長の挨拶)

会の現状につきましては、のちほど事務局より会務報告がございますが、三月末現在、会員数四、三三八名でございます。内新入会員二三八名、復活会員一名、物故・退会・除籍会員一一一名で昨年より一三八名の増となっております。また昨年度の物故者は辻名譽会員を始め二四名の方で、誠に残念なことでありました。後ほど物故者に対しまして黙禱を捧げたいと存じます。

さて、昨年度の行事を振り返ってみますと、何と申しまして中国／日本／ネパール三国友好登山の現状につきましては、のちほど事務局より会務報告がござい

大塚副会長、三国友好登山の成功を報告

昭和六十三年通常総会



1988年(昭和63年)
7月号(No. 517)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150 円

目次

昭和 63 年度通常総会	(1)
海外の山	(3)
「シバロの情熱」	
自然保護随想	(4)
女性の登山装備展示について	
資料委員会 坂倉登喜子	(5)
行事報告 熊本支部	(5)
追悼	(6)
「川森左智子さんのこと」	
「永年会員 小池文雄さん」	
会務報告・ルーム日誌	(6)
新入(復活)会員	(8)
昭和 63 年度除籍対象者名	(9)
収支計算書	(9)
正味財産増減計算書・貸借対照表	
財産目録ほか	(11)
収支予算書	(12)
昭和 62 年度事業報告	(13)
昭和 63 年度事業計画	(14)
三国登山会員募金応募者芳名	(14)
会員異動・住所住居表示変更	(15)
お知らせ	(14), (15)
婦人懇、図書委、資料委	

▶日本山岳会事務取扱時間
月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時

日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時

●ルーム夏休み
8/15(月)～8/20(土)

の準備と実施に会の大半の力を割いて会員の皆様にご迷惑をかけたと同時に、多大のお力添えを受けたことについて、触れたいと存じます。私もつい先日北京より戻ってきた許り

お知らせテラップ電話

234 六六五九

よる和洋書の充実、月例山行及び各種委員会の充実などが行なわれたのはその一例であります。また、全国二十一支部に対しては、助成金を増額し、支部活動の活性化を計ると共に、各支部の主要行事には役員が可能な限り出席いたし、支部との交流に努力して参りました。そして、昨年度の地方ブロック懇談会は、京都で行なわれ、一五〇余名の会員が全国より集り、盛会でありました。京都支部の行届いたご配慮に対し、厚くお礼申し上げます。

この様に有意義な集いが各地方ブロック毎にますます活発に行なわれ、会員相互の交流の輪が更に広がるよう期待します。

以上、会の経常的な活動であります。が、将来、「二十一世紀に向けて会はどうあるべきか」というビジョン作りの第一歩として、名誉会員の方々が評議員会に諮問いたしておりました。昨年未答申をまとめて頂きました。

今後は理事会や各委員会での検討を重ね将来に向けて、よりよい会の発展を実現するための指針を得たいと考えております。

なお、申しおりましたが、昨年七月、浩宮徳仁親王殿下、三笠宮寛仁親王殿下が自ら進んでご入会下さったこと、そして浩宮殿下が年次晩餐会に出

席されて、新入会員の代表としてご挨拶を頂いたこと、また会のルームにもお立ち寄りになり、資料の一部や図書室をご覧頂いて、会の歴史と伝統の一端にふれて頂いたことは大変嬉しいことでありました。

以上、昨年度の概況を申しあげましたが、本日ご審議頂く議案と致しましては、ご案内の通り……

①昭和六十二年事業報告および収支決算財産目録承認の件

②昭和六十三年事業計画(案)および収支予算(案)承認の件

③昭和六十三年度会員除籍の件

以上の三件がございます。詳細は事務局より説明致しますので、宜しくご審議頂くようお願いいたします。

聊か蛇足かとも思いますが、先程申しあげました「二十一世紀を迎えるに当ってのヴィジョン」の確立、国内諸事項の整備・拡充などを本年度の目標として努力致していきたいと存じます。

何卒皆さまの一層のご支援と、遠慮のないご批判をお願い申し上げます。以上総会開催のご挨拶といたします。

*

司会は勝山総務担当理事があたり、はじめに、定款による総会成立に必要な人数の確認が行なわれ、議長には今西会長、議事録署名人には高遠宏、石

橋正美の両会員が指名された。

最初に新井理事より会務報告がなされたが、それによれば、名誉会員二十四名、永年会員三八名、終身会員五四名、通常会員四、二三名で合計四、三三八名であること、昭和六十二年の新入会員は二三八名、復活会員一名、物故会員二四名、退会者三八名、除籍者は四九名でその結果、会員増は一三八名であった。ついで、物故会員に対し黙禱が捧げられたが、六十二年の物故者は次の通りである。

〔物故会員氏名・敬称略〕

河本清(永)、辻莊一(名)、山崎金次郎(永)、水越誠一(永)、奥貞雄(永)、服部敏一、谷博、前田昌晴、江波戸俊弥、加藤喜一郎、織田収、岩崎昭一、岩永安雄、細井隆司、茶谷東海、清田清、多田隆峰、奥井忠保、新谷栄三郎、兼平治水、大味精司、北出箕吉、富士秀夫、牛窪浩

ついで大塚副会長より昨年度の最大イベントであった三国友好登山の経過報告が特別に行なわれた。その概要は次の通りである。

「詳細はTV、新聞等で報道されたので省略するが、非常に強運に恵まれて無事に終った。とくに五月五日の天候には大変気をつかったが稀にみる快晴に助けられた。今回のことを点数をつければ九〇点という所であと一〇点

は南側のクロスに日本人がいなかったこと、頂上でランデブーができなかったことぐらいいで、成功は定石通りの極地法を展開した結果だと思ふ。

なお、募金についても会員、企業ともきわめて順調で、赤字でなく終る見通しで、皆さまのご協力に感謝いたします。」

▽第一号議案・昭和六十二年事業報告および収支決算、財産目録承認の件については、予め配布された資料(別掲)にもとづいて、事業報告は新井常務理事、決算関係は西村財務担当常務理事がそれぞれ読み上げながら説明を加えた。まず昨年度行なった事業はほぼ例年通りであるが、四〇回に及ぶ集會を実施し、その中でとくに大きなものは十一月一日に京都で行なわれた全国支部懇談会、十二月五日の年次晩餐会と三月十二日の新入会員オリエンテーションなどであった。研究会は日本登山医学シンポジウムなど二回、講演会は九回、展覧会は山岳写真の源流展など五回、そして支部の活動は東海支部の日本・ネパール国際交流訪ネなど七件で、永年続けられてきた静岡支部の紅葉会は最終回であった。

登山施設の改善、その他登山に必要な事業は上高地山研の開所のほか、フィルム、スライドの充実、山岳博物館の準備その他であり、山岳遭難予防対

策、自然保護活動の推進、海外登山での最大のものは三国友好登山であった。さらに、機関誌は例年通り「山岳」「山」「山日記」がそれぞれ刊行されたほか、海外山岳団体一四カ国一九団体との情報交換も活発に行なった。

また六十二年度の収支決算、財産目録についても別掲の資料の通りであるが、本年度から公益法人会計基準に忠実に則ったので、従来の形式とは若干異なり「正味財産増減計算書」が新しくつくられたり、未収入会費や棚卸資産なども計上されている。なお、事業報告にはのっていないが、松田常任評議員の大変な尽力により会計処理もコンピュータとなったので、簡単、迅速かつ正確にやれるようになったと感謝の意が表された。

六十二年度の収支決算を結論的に要約すれば、当初赤字予算で出発したにもかかわらず、収入の部で予想以上の会費収入の伸びがあり（予想より入会者が三八名もうまわった）極めて健全に推移し結果的には黒字決算となった。

支出の部についても事務費、管理費、その他もほぼ予算通りよくコントロールされ予算をわずかに上まわったのみであった。なお、図書費の増額は山崎文庫の購入費であり、什器備品購入支出の七〇万円はその書架である。

海外の山

シパロの情熱

地球のてっぺんの縦走、といってもピンと来ないかもしれないが、六月一日、ソ連とカナダの十三人の男達がカナダ・エルズメア島にたどりついた時の状況を簡単に言えばそうなる。三月三日、ソ連北極圏のセーベルナヤ・ゼムリヤをスキーで出発した一行は、八十一日をかけてユーラシア大陸から北米大陸を徒歩で横断するという前人未到の快挙をやったのである。

四月二十六日、中間地点の北極点に到達した時は両国の大臣までお祝いセレモニーのために極点にジェット機とヘリを乗り継いで駆けつけた。私を含めて十一人の外国人取材者も初めてソ連圏から北極点に舞いおりる機会を与えられた。一見国を挙げての大エキスペディションのようだが、仕掛けたのは極地探検家として知られる隊長のドミトリー・シパロだった。

四十六才、一八八十センチのこの数学教師の極地への情熱はすさまじいものである。十年をかけて準備した最初のスキーによる北極点行を一九七九年に六人の仲間と成し遂げ、次の目標として「横断」を計画、その準備を進めながらタイミール半島周辺や暗夜の北極海で長期間の水の上スキー探検を何度も試みている。ソ連からカナダへの横断を実現するためには無論いろいろな障害があった。いくつかの探検行を共にしながら彼の行動を二十年間追いついて来たベテラン記者によれば、それをともかくも可能にしたのはシパロの情熱だった。

北極点で会ったシパロは、沈着で、力強さにあふれた、しかも謙虚な男だった。行程半ばということもあって千歩を歩き通したことへの気負いはなく、氷の割れ始める後半の八百歩のタクティックスをもっぱら考えているようだった。

話を聞いてわかったことの一つは、彼らはほとんど休まないという事実である。全行程で五回の補給フライトがあった（うち極点までは三回）が、その待時間です。厳しい、データ収集のための医療チェックに費やされた。でこばこやクラック以外何の変哲もない無限の氷海を毎日歩き続けるソ連の冒険家の体力は、カナダ人のそれを幾分上回ったらしく途中「スピードが早すぎる」とカナダ隊員の間で注文も出たらしい。

一九七九年の北極点スキー行当時の写真を見ると装備類はかなり素朴なものを使っていた。今回はもっと軽量、保温性のあるものが用意されたが、寒さや風雪に対するソ連の男達の強さは並ではない。実際に北極で風に吹かれてみるとそれが実感されるのだ。

「彼は最強のスキーヤーでも歩行者でもない。しかしひとたび前方に困難が立ち塞がると必ず自分が先頭に立つ」シパロのことを友人の一人は北極探検についての本の中でこう書いている。モスクワでの生活でもそのための鍛練を欠かさない、とトレーニングに励む彼の写真を私も見せてもらったことがある。

シパロを含め何人かの極地探検家と話して一人一人の面白い持ち味が印象に残った。ポーランドの登山家もそうだったが、社会主義の国についてもっぱら決まりきった情報しか持たないために私達は冒険者たちの個性を知る上で損をしている、と思う。

(江本嘉伸)

以上の結果、当期の正味財産の増加額は一、〇六八万円、それに前期繰越正味財産を加えると期末の正味財産合計は一億四、五四〇万円となった。

これに対して、山本健一郎監事より監事を代表して監査報告があり、六十二年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録などについて、正確かつ妥当であり、また業務についても正確かつ妥当なものであるとされた。

その結果、全員異議なく拍手のうちに承認された。

▽第二号議案・昭和六十三年事業計画(案)および収支予算(案)承認の件について第一号議案と同様、新井、西村両理事がそれぞれ担当に従って配布資料(別掲)によって説明した。

それによれば昭和六十三年の事業計画は本年七月に北海道で行なわれる全国支部懇談会など集会二一回、研究会五回、展覧会一回、講演会五回、その他登山のための適切な事業、自然保護の推進、機関誌の発行などほぼ前年度並みの事業が計画されている。またそれに伴う予算についても別掲の資料の通り計上されており、前年度が赤字予算で出発したのに対し、本年度は若干(二一・五万円)の黒字予算でスタートするという極めて健全な運営ができる。

以上についても、全員異議なく拍手のうちに承認された。

▽第三号議案・昭和六十三年除籍の件については別掲資料の通り四九名であるが、これについては勝山理事より「これはあくまで除籍対象者案であり、会費を納入すれば復帰できるのだから、知り合いの各位から説得していただきたい」との要請があった。

以上、本年度は特に役員人事もない

ので極めてスムーズに議事が進行し、ほぼ予定通りの午後七時に審議は終了した。最後に司会より、本年六月十八日、勤労福祉会館において「三国友好登山隊の懇談会」があるのでできるだけ出席して欲しい旨の説明があったのち会場を隣に移して恒例の懇親会が行なわれた。

くだけた雰囲気の中、モランマの話。「私は八一歳、まだまだ元気で海外の山に行っていますから、皆さんも頑張ってください」との前置で佐々前会長の乾杯の音頭で宴会が始まった。あとは例によって談笑の輪ができ、和気あいあいのうちに、午後八時半前に解散となった。

(記事・小倉厚

／写真・武居台三)

《自然保護随想》

やせゼンマイ

この連休に故郷の山に入った。豪雪で名高い新潟の魚沼地方。そしていま、里山は山菜取りの最盛期であった。豊かな水を吸い半年間の完全な休養をとることのできるこの地は肥沃、かつては山菜の宝庫であった。特に魚沼のゼンマイは有名で、殊のほか村人達は大切にしていた。

ところで山菜取りの最低のマナーは、小さいものや、不必要なものまで取らないということである。ましてや根こそぎなどということは決してしてはならない。必ず種を残して次代につないでやるだけの自然保護への配慮が必要だ。さもなくば総てをなくしてしまう自然破壊へとつながってしまう。あたかも釣人が小さい魚は川に返すような資源保護のやさしい心掛けが欲しい。いかに強靱な生命力に富む山菜といえども乱獲は死滅を招いてしまう。

かつてのわが村のゼンマイは太くてかつ豊富にあった。

だが、今はどうだろう。故郷の山での私の見分は、いたる所に車道がつけられずたづたになっていた。だから町からも他村からもごく簡単に車で乗りつけられ、折からのグルメブームにのって山菜に人気が集まることもあって多くの人の姿があった。当然、山菜取りの最低のマナーも知らない人が多くなっているのだろう。その結果、わが村人達が大切にしていた山菜は荒されて見るかげもなく、私は茫然としてしまった。

私達は細いゼンマイを「やせゼンマイ」と呼んでいる。文字通り針のように細くやせた顔のゼンマイのこと、村人たちはそんなものは可愛いそうで決して手を出さなかった。ところが、今ではそればかりが目につき、それまで取ってしまっているようだ。

今春、新聞で話題を呼んだ岐阜県の宮川村のように入山規制をしたり、パトロールをしているのもむべなるかなと思った。

わが故郷の自然の荒廃や破壊の進展の度合は、この「やせゼンマイ」に表徴されているのではないかと嘆きつつ山をおりてきた。

(小倉厚)

女性の登山装備

展示について

資料委員会

坂倉登喜子

去る昭和六十年八月、日本山岳会ルームにおいて、日本山岳会創立八〇周年記念展を開催した際、かねて「山岳博物館を考える会」では、将来の夢として歴史的資料を整理し集めることを目指していたのでこれに協力しようということになった。

その時、婦人懇談会の担当理事だった梅野淑子会員は女性登山史の展示を、受持ち数人の有志会員の協力を得て、女流登山家の写真や登山装備、「女性登山・現代への歩み」の年表など展示したところ、思わぬ好評を受け、皆で協力してやったという実感を得た。

この時の展示品は現在松本アルプス山岳館の女性コーナーに展示されているが、女流登山家から借用した装備は一応お返ししてしまったので、写真だけはエベレスト遠征隊田部井隊員のものであるだけで、古い女性の装備は何も無いままである。

昨年上高地山研へ行った折、松本アルプス山岳館へ立寄って、川口義隆主事に会ったところ、女性の古い服装や

装備が無いので、若しあったら寄託して頂けないかという要望があった。故村井米子女史の装備もお願ひしてあり、その内、入手できる予定であるが、できれば現在古い会員の方で、使用済みの装備を、ご寄贈頂けないものかと思ひ、この欄を借りてお願いする次第である。

特に女性用と区別するのは、女性の登山は主として女人禁制が明治五年解禁されてからの登山であつて男性よりずっとおくれていて女性用の装備も当時は殆ど無く、誠に貴重な物といえるからである。

既に使用しなくなったビッケル、アイゼン、登山靴、ザック、登山服装その他、明治、大正、昭和頃までの古い装備、また海外遠征時に使用した装備等、ありましたら、是非この際、日本山岳会資料委員会にご寄贈頂きたいと思う。

「山岳博物館を考える会」も、資料の整理や、大町山岳博物館及び松本山岳館への寄託等、中村純二氏を中心に皆が協力した結果、昭和六十二年には「資料委員会」として、織田沢担当理事のもとに発足し、新しい段階を迎えている。そして、将来の日本山岳会による山岳博物館に展示する資料の保存と収集を目的として、人員も増加し、地味な仕事を続けているのが現状である。

る。

欧州の山岳博物館と日本の山岳博物館

私は毎年ヨーロッパ・アルプス周辺の旅に同行し、山岳博物館を見学している。

特に毎年訪れるツエルマットの山岳博物館（財源ザイラー財団、管理スイス山岳会）は、ツエルマット支部長ホフステッター氏のご好意で、見学させて頂いているが、行くたびに内容の一部が展示替えされていて、中でもアルプス登攀記で有名なウインバーのロープ切断による遭難記録の一室は、胸迫る思いにさせられる。ただ難をいえば、館が二階建てで狭い感じだ。ベルンのは郵便局の建物の中にあり、シャモニは大きなアパートの階下にあつて独立した立派な建物ではない。

これに比べると日本の大町博物館は、以前小学校舎を改築していたものが、後に立派な建物を新築して日本を代表する山岳博物館になった。

一方、松本アルプス山岳館は松本市観光課の管理で、博物館ではないため、小規模で、団体食堂が大きく、展示室が狭いのは誰しも感じることであり、また海外の山岳博物館に比較する

と、共に内容的に系統立った豊富な資料が足りないように思われる。

山国日本にも世界の岳人が訪れても誇れるような山岳博物館を、と前会長佐々保雄氏時代にそのビジョンが紹介されたが、^器つまり建物に入れる貴重な歴史資料を今から集め、大町や松本に寄託しやがてはこれ等貴重な資料が一堂に集められ展示できる時代を迎えられたら……、と私たちは小さな希望の芽をふくらませ、資料の収集と保存の仕事を続けている次第である。

行事報告

熊本支部

支部総会

昭和六十三年度の支部総会は、五月十五日午後二時から熊本市のNTT会議室で開催された。

先ず西沢支部長挨拶のあと支部長を議長に指名し、田上常務委員が提出議案の説明を行なうという形で議事は進行された。

●昭和六十二年の事業報告、決算報告、会計監査報告はいずれも原案通り、昭和六十三年の事業計画は次の

次代に残そう美しい山と溪

通り承認された。

四月二十三日～二十四日 目丸山

八月六日～七日 場所未定

十月十五日～十六日 上福根山

一月七日 新年晩餐会

●支部規約の一部改正

支部長を補佐するため、新たに副支

追悼

川森左智子さん

のこと

五月二十日、総会の日に、川森さんが亡くなられた。伊東の国立温泉病院から熱海ケアホテルへ移られたのが一昨年の暮である。温泉病院ではリハビリを受けていらつしやったが、熱海ではほとんどベッドの生活のご様子だった。

昭和六十年六月に、JAC創立80周年記念の展示品をお借りしに伊東へ伺った頃は、言語と歩行がほんの少しご不自由だったもののとてもお元気で、伊東の海と街を一望するすばらしいお宅でアルバムを見ながら山のお話をして下さったり、ご主人にアトリエのたくさんさんの絵を見せていただいたりして本当に楽しい一日を過ごしたことが、夢のように思ひかしく思い出される。その後お見舞に伺って山や山岳会のあれこれをお

部長職を設けるための支部規約の一部改正案が提出され承認された。

●役員選任

西沢支部長の任期満了による退任に伴う新しい支部長には奥野正亥が、今回新たに設けられた副支部長には本田誠也が選出された。なお、三十年にわ

話すると、目をきらきらさせて嬉しそうにきいて下さったし、一昨午秋に名誉会員推せんが決ったことをお知らせに伺った時は本当にお喜びになり、年次晩さん会に(車椅子で)出席したい、とおっしゃったのが忘れられない。

川森さんといえば女性登山家の草分けとして活躍され、岩登りなど女性として数少ない分野での先駆者である。まだ外国の山など夢のまた夢だった昭和三十九年に、八カ月もヨーロッパに滞在されて今井友之助さんと本場のアルプスを登られた。フランスやスイスの登山家との交流も多い。山登りはもちろん、スキーは指導員、カメラは個展を開く腕前、お料理は先生、と、何をなさっても一流で、私たちにとっては雲上人のような方であったが、婦人懇談会の行事などにはいつも一会員として参加されメンバーシップを大切にしてお下さった。

今年もさくらで会いましょう

たり支部運営に携わってきた西沢前支部長は顧問に選出された。

●支部事務局の変更

〒八六〇熊本市二本木三ノ三ノ八田上敏行方 電話〇九六一三二四一二〇〇に変更する。

総会終了後、三時から別室で懇親会を行ない、新緑の美しい日本庭園を眺めながら午後のひとときを過した。

春季例会

四月二十四日(日)、平家落人伝説で有名な五家荘の北に位置する目丸山(一三四一m)へ、カタクリの花を訪ねて登った。

「九州にはカタクリは自生しない」とする植物図鑑もあるが、この時期、この付近の山一帯では見ることができ。まだ原生林の残る山頂までは登山口より一時間半の行程。

今年四月に入って寒い日が続いたので、例年通り開花しているか心配だったが、ツガやブナの大木に囲まれたなだらかな山頂の落葉の間から、点々と特徴あるうつむきかげんの姿をのぞかせていた。

新緑にはまだ早い、薄ら陽の洩れる明るいパステル調の林の中に、清楚で

会務報告

五月理事会

五月十一日午後六時三〇分

場所 本会ルーム

出席者 村木副会長、小林、早坂、松永、浜口、織田沢、田部井、関塚、大橋、太田、岡沢、新井、大森、勝山、鈴木、西村各理事。太田監事、松田、平林、小倉、広羽各評議員。
委任 今西会長、大塚副会長、鳴原理事、山野井評議員。

審議事項

●三國友好登山報告会開催の件 承認
委員会報告

●総務 四月十七日新入会員歓迎さくらハイク 浅間嶺にて 参加六十四名
「日本山岳会のしおり」作成について、各支部との情報交換について、会報掲載文の転載について。

●三國登山 五月五日登頂交差縦走に

ご自分の思うままさつそうと生きていらした川森さんが、お会いするたびに目に見えて弱っていかれ、いつも山や雪で焼いていらつしやったお顔が白くすき透って、まるで可愛いお人形さんのようになられたのは本当に胸の痛む思いであった。

ご自分でもどんなにか齒がゆく、無念に思われたことであらうか。良い季節になってお見舞に伺おうと思っていた矢先の訃報であった。何とも心残りで、申しわけない思いでいっぱいである。

(山口節子)

永年会員

小池 文雄さん

たしか昭和十年頃の夏だったと思う。徳沢小屋の囲炉裏^{ばた}に胡座^{あぐら}をかいていた、いかにも山なれた中年の登山者に会ったのは。連れていた山案内は飛驒の中島作之助だと、その人から教えられた。当時二十年代前半のわれわれ学生登山者から見ると、随分年とってみえたその人は、いま考えると三十代の後半か精々四十代だったろう。それが小池文雄^{ふみ}さんに初めてお会いしたときだった。

後から小池さんが日本山岳会の会員で『山岳』に「十二月の鹿島槍ヶ岳」(23年2号)や「春、頂稜を追ひて」(25年2号)を寄稿されているのを読み、当時の社会人登山者では数少ない積雪期の登山をやられる人だと思っていた。最近調べてみたら昭和十年前後の「山と溪谷」誌に、小池さんは北ア、南ア、信州各地の山の紀行をかなり寄稿していた、その活躍を裏づけているのを知った。

戦後いつ頃だったか、もうはつきり覚えていないが、転居先不明から連絡が途絶え、徐籍者の名簿に入れられるのを知り、漸く住所を調べだして手紙を差上げ会員にのこっていた。昭和五十三年十二月の年次晩餐会で永年会員になられたとき、四十余年ぶりにお会いして懐旧談を交わした。「貴方のお蔭で永年会員になれましたよ」と喜んで言われたことが忘れられない。

小池さんは昭和三年(一九二八)九月入会、会員番号一〇八四、去る二月二十八日逝去。長野県各地の旧制中学校の先生をされていたと記憶する。会員歴六十年に亘る古い会員の遠逝を心から悼み、冥福を祈ります。

(望月達夫)

追悼

●山岳編集 目次作成途中、原稿依頼中



(5月)

- 高所登山 「初めてのヒマラヤ」講師沢野ひとし氏
- 科学 四月十六日「危険な動物と安全登山」開催 参加者七〇名
- 医療 六月十一〜十二日第八回日本登山医学シンポジウム開催
- フィルム 六月七日「厳冬のエベレスト」上映
- 婦懇 四月二十一日、五月十四日筑波大で低圧トレーニング、五月二十七日〜二十九日 白神山登山行 共催秋田支部
- 自然 九月三〜四日 自然保護全国集会、議題「大規模開発と自然保護」、上高地にて開催予定。
- 集会 四月二十七日 現地小集会
- 黒姫山、五月十四日〜十五日 若葉会山行西吾妻山
- 山研 四月三十日上高地山研開所
- 会報 各委員会の催し物の日程はルームの使用等調べて原稿を送ってほしい。
- 図書 マウンテンワールド寄贈予定について。
- 6日 常務理事会
- 11日 理事会
- 12日 婦人懇談会、学生部
- 13日 科学委員会
- 16日 学生会、サクラハイイク写真交換会
- 17日 総務委、婦人懇談会
- 18日 山研委、三水会
- 20日 支部長会議
- 23日 フィルム委員会
- 24日 海外委、資料委
- 26日 婦懇
- 27日 図書委員会
- 30日 高所登山委講演会
- 31日 自然保護委員会
- 会員異動 5月 5月来室者435名退会
- 里見桂子(九一八五)
- 藤野澤祐(二二七六)
- 横山 聡(九九〇一)
- 林 哲也(六四〇〇)
- 物故
- 浜岡 透(五三八六)

(14ページへ続く)

63・3・31

漢字百話シリーズ第4弾

漢字
百話
監修・近藤信行
山・やま事典

新刊案内

7月初旬刊行

目次

『山への讃歌』。自然を愛する人々に贈る
『文字と言葉と写真』でつづる山の百話。
●山名山字●山字博覧●山の話・諺●山嘘文字考
●山の文学●山文字姓名と家紋●山の用語集●山の
神話・伝説・俗信●山なんでも事典●他

カラーおよび2色刷・写真・イラスト・図版など多数使用
体裁 B5判・並製・160ページ 定価1,800円

大修館の山岳図書

内容見本呈

覆刻

日本の山岳名著

全18点22冊付
解題書1
特別資料1

日本の近代アルピニズム史上に燦然と輝く不朽の山岳名著
企画・編集 日本山岳会 ■現金価格1,900,000円

新選
覆刻

日本の山岳名著

全20点29冊付
解題書1
特別資料2

企画・編集 日本山岳会 ■現金価格1,750,000円

説
百

山岳の世界

上製函入・310頁
定価1,800,000円

N・デイレイン・ファース・T・ヒーベラー他著 日本語版監修 西堀栄三郎・宮下啓三

遙かなりエヴェレスト―マロリー追想―

島田 巽著 四六判・フランス装・292頁 定価1,500円

〒101 東京都千代田区神田錦町3-24 大修館書店 ☎(03)294-2221<大代表>

指導費	1,185,000	955,910	229,090
支部関係費	3,200,000	2,182,712	1,017,288
海外諸関係費	500,000	209,003	290,997
山岳研究所運営費	2,041,000	1,846,386	194,614
その他事業費	1,000,000	1,394,604	-394,604
印刷・製本費	1,200,000	0	1,200,000
通信運搬費	4,000,000	3,078,120	921,880
事業費計	25,481,000	23,047,053	2,433,947
2. 管理費			
給料・手当	6,300,000	6,520,600	-220,600
文具・消耗品費	200,000	109,280	90,720
印刷・製本費	1,000,000	898,030	101,970
旅費・交通費	600,000	435,530	164,470
通信・運搬費	1,000,000	767,185	232,815
火災保険料	70,000	76,850	-6,850
修繕費	100,000	64,140	35,860
租税公課	600,000	425,490	174,510
光熱水料費	620,000	447,970	172,030
電話料	500,000	236,085	263,915
会議費	300,000	311,022	-11,022
什器備品費	100,000	164,350	-64,350
振替手数料	250,000	261,320	-11,320
支部運営費	2,850,000	2,791,500	48,500
福利厚生費	150,000	104,375	45,625
事務所管理費	650,000	667,900	-17,900
その他管理費	1,500,000	1,663,275	-163,275
負担金	0	135,000	-135,000
雑費	500,000	1,126,376	-626,376
管理費計	17,290,000	17,206,278	83,722
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	700,000	-700,000 注 2
4. 特定預金支出			
図書出版研究基金支出		326,670	-326,670
長期計画積立金支出		3,231,772	-3,231,772 注 3
登山特別基金支出		447,500	-447,500
終身会費積立金支出		570,000	-570,000
退職給与積立金支出		0	0
特定預金支出計	300,000	4,575,942	-4,275,942
5. 予備費			
予備費	1,800,000	0	1,800,000
当期支出合計(C)	44,871,000	45,529,273	-658,273
当期収支差額(A)-(C)	-1,161,000	9,775,819	-10,936,819

収 支 計 算 書

昭和 62 年 4 月 1 日から昭和 63 年 3 月 31 日まで

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	375,825	24,175	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,570,000	-570,000	
復活会費収入	0	165,000	-165,000	
通常会費収入	36,100,000	41,436,500	-5,336,500	
終身会費収入	0	570,000	-570,000	
会費・入会金収入計	39,100,000	45,741,500	-6,641,500	
3. 事業収入				
広告料収入	1,000,000	1,006,300	-6,300	
印税収入	30,000	51,183	-21,183	
刊行物売上収入	450,000	368,320	81,680	
その他事業収入	500,000	708,420	-208,420	
山研使用料収入	1,380,000	1,057,883	322,117	
事業収入計	3,360,000	3,192,106	167,894	
4. 雑収入				
受取利息	200,000	1,305,660	-1,105,660	
雑収入	350,000	740,001	-390,001	
雑収入計	550,000	2,045,661	-1,495,661	
5. 特定預金取崩収入				
図書出版基金取崩収入	0	3,950,000	-3,950,000 注 1	
6. 特定預金運用収入				
特定預金運用収入	300,000	0	300,000	
当期収入合計(A)	43,710,000	55,305,092	-11,595,092	
前期繰越収支差額	8,358,572	8,358,572	0	
収入合計(B)	52,068,572	63,663,664	-11,595,092	

(注) 1 特定預金取崩収入 3,950,000 (故山崎安治会員の蔵書及び書架購入のため取崩)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,000,000	9,028,294	1,971,706	
図書費	700,000	3,959,399	-3,259,399 注 1	
調査研究費	655,000	392,625	262,375	

固定資産合計		126,423,720	
資産合計			147,096,461
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	247,900		
預り金	154,010		
流動負債合計		401,910	
2. 固定負債			
退職給与引当金	1,300,000		
固定負債合計		1,300,000	
負債合計			1,701,910
[3] 正味財産の部			
正味財産			145,394,551
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産増加額)			10,675,791
負債及び正味財産合計			147,096,461

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の78%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金・預金、未収会費、未払金、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃(日本)	420,000	0	0	420,000
〃(中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	8,358,572	14,999,801	
未収会費		3,536,500	
合 計	8,358,572	18,536,301	
前受会費		247,900	
預り金		154,010	
合 計	0	401,910	
次期繰越収支差額	8,358,572	18,134,391	

注) 前期は、現金・預金のみを資金の範囲とした。

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	36,006,808	0	36,006,808
什器備品	4,780,500	0	4,780,500

次期繰越収支差額 (B)-(C)	7,197,572	18,134,391	-10,936,819
---------------------	-----------	------------	-------------

- 注) 1 図書費 ¥3,959,399(故山崎安治会員の蔵書購入 ¥3,250,000)
2 什器備品購入支出 ¥700,000(上記購入図書を収納のため)
3 長期計画積立金支出 ¥3,231,772(同積立金積み増し ¥3,000,000)

正味財産増減計算書

昭和 62 年 3 月 31 日～63 年 3 月 31 日

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	9,775,819	
什器・備品	700,000	
長期計画積立金	3,231,772	
登山特別基金	447,500	
終身会費積立金	570,000	14,725,091
増加額計		14,725,091
I. 減少の部		
1. 資産減少額		
棚卸資産	425,970	
図書出版研究基金	3,623,330	4,049,300
減少額計		4,049,300
当期正味財産増加額		10,675,791
前期繰越正味財産額		134,718,760
期末正味財産合計額		145,394,551

(注) 公益法人の新会計基準の実施にともない資金の範囲等を変更したため前期繰越正味財産額を一部修正した。

貸 借 対 照 表

昭和 63 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現 金	276,779	
振替貯金	425,945	
普通預金	2,297,077	
定期預金	12,000,000	
未収会費	3,536,500	
棚卸資産	2,136,440	
流動資産合計		20,672,741
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
その他固定資産		
土 地	46,297,170	
建 物	36,006,808	
什器備品	4,780,500	
図書出版研究基金	3,594,316	
長期計画積立金	10,031,473	
登山特別基金	13,293,453	
終身会費積立金	3,120,000	
退職給与積立金	1,300,000	
その他固定資産合計	118,423,720	

固定負債合計	1,300,000
負債合計	1,701,910
正味財産	145,394,551

注 1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳覆刻版等	1,127,910
服飾品・その他	クラブタイ ペンダント等	1,008,530
合 計		2,136,440

注 2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室		金 額
場所	東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下 1 階付 5 階建 (事務所) 区分所有建物 1 階部分 103.32 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² × 339/10,000 = 38.122584 m ² (図書室) 区分所有建物 1 階部分 55.22 m ² 宅地持分 1,124.56 m ² × 176/10,000 = 19.792256 m ² 計 158.54 m ² 宅地持分 57.91484 m ²	円 72,720,170
B 上高地山岳研究所		
場所	長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い林小班	円
構造	鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1 棟 100.69 m ²	9,583,808
合 計		円 82,303,978

2. 什器備品

品 名	取 得 日	取得価格	所 在
大テーブル (2 台セット) チーク材 750 × 1200 × 720	48. 7. 31	164,200	上 高 地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7. 31	178,000	上 高 地
書庫内移動書架一式, コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図 書 室
応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談 話 室
閲覧用テーブル (2 台), 木製	53. 9. 28	250,000	図 書 室
ライティングビューロー, 木製	54. 6. 23	280,300	図 書 室
テレビ, シャープ CT-2601 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談 話 室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55. 12. 27	116,000	談 話 室
フィルム収納キャビネット (スチール製)	56. 8. 8	254,000	図 書 室
図書カード容器, 木製 3 段	56. 9. 12	200,000	図 書 室
書 棚, 木製 2 段	56. 12. 22	500,000	図 書 室
16 mm 映写機 16-CL(MO)	61. 5. 13	156,000	図 書 室
MS パウチ H-140	61. 10. 17	95,000	事 務 所
東芝パーソナルワープロ JW-R 70 F II	62. 3. 12	89,000	事 務 所
木製書架ガラス戸付 (2 台)	62. 9. 24	700,000	図 書 室
合 計		4,780,500	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として寄贈を受けたもの)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	62 年度 受入冊数 1425 冊	7103 冊
洋 書	62 年度 受入冊数 466 冊	2575 冊

2. 絵 画

題 名	種類, 号数	作 者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳 油	A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓 油	A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館

合 計	40,787,308	0	40,787,308
-----	------------	---	------------

財 産 目 録

昭和 63 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額
[1] 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金 現金手許有高	276,779
振替貯金	
東京地方貯金局	425,945
普通預金	
協和銀行市ヶ谷支店	1,899,690
三菱銀行市ヶ谷支店	201,615
三和銀行本郷支店	32,745
東京銀行本店	13,827
中央信託銀行本店	11
三井信託銀行新宿西口支店	112,724
日本信託銀行本店	36,465
定期預金	
協和銀行市ヶ谷支店	12,000,000
未収会費 332 名分	3,536,500
棚卸資産*1	2,136,440
流動資産合計	20,672,741
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
貸付信託	
三井信託銀行本店	2,380,000
日本信託銀行本店	420,000
中央信託銀行本店	5,200,000
基本財産合計	8,000,000
(2) その他固定資産*2	
土 地 57.9184 m ²	46,297,170
建 物 259.23 m ²	36,006,808
什器・備品	4,780,500
図書出版研究基金 (定期預金・協和市ヶ谷)	3,594,316
長期計画積立金 (定期預金・協和市ヶ谷)	7,031,473
長期計画積立金 (普通預金・協和市ヶ谷)	3,000,000
登山特別基金 (定期預金・協和市ヶ谷)	13,293,453
終身会費積立金 (定期預金・協和市ヶ谷)	3,120,000
退職給与積立金 (定期預金・協和市ヶ谷)	1,300,000
その他固定資産合計	118,423,720
固定資産合計	126,423,720
資産合計	147,096,461
[2] 負債の部	
1. 流動負債	
前受会費 46 名分	247,900
預り金 職員に対する源泉所得税	154,010
流動負債合計	401,910
2. 固定負債	
退職給与引当金	1,300,000

6. 別途会計運用収入			
別途会計運用収入	0	300,000	-300,000
当期収入合計(A)	45,470,000	43,710,000	1,760,000
前期繰越収支差額	18,134,391	8,358,572	9,775,819
収入合計(B)	63,604,391	52,068,572	11,535,819

科 目	予 算 額	前 年 度 額	増 減	備 考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,640,000	11,000,000	-360,000	
図書費	950,000	700,000	250,000	
調査研究費	760,000	655,000	105,000	
指導費	1,150,000	1,185,000	-35,000	
支部関係費	3,000,000	3,200,000	-200,000	
海外諸関係費	400,000	500,000	-100,000	
山岳研究所運営費	2,000,000	2,041,000	-41,000	
その他事業費	1,600,000	1,000,000	600,000	
印刷・製本費	400,000	1,200,000	-800,000	
通信運搬費	3,500,000	4,000,000	-500,000	
事業費計	24,400,000	25,481,000	-1,081,000	
2. 管理費				
給料・手当	7,000,000	6,300,000	700,000	
文具・消耗品費	200,000	200,000	0	
印刷・製本費	1,900,000	1,000,000	900,000	
旅費・交通費	600,000	600,000	0	
通信・運搬費	900,000	1,000,000	-100,000	
火災保険料	100,000	70,000	30,000	
修繕費	100,000	100,000	0	
租税公課	585,000	600,000	-15,000	
光熱水料費	500,000	620,000	-120,000	
電話料	350,000	500,000	-150,000	
会議費	300,000	300,000	0	
什器備品費	100,000	100,000	0	
振替手数料	270,000	250,000	20,000	
支部運営費	2,950,000	2,850,000	100,000	
福利厚生費	150,000	150,000	0	
事務所管理費	650,000	650,000	0	
その他管理費	1,500,000	1,500,000	0	
負担金	0	0	0	
雑費	400,000	500,000	-100,000	
管理費計	18,555,000	17,290,000	1,265,000	
3. 特定預金支出				
特定預金支出	500,000	300,000	200,000	
4. 予備費				
予備費	1,800,000	1,800,000	0	
当期支出合計(C)	45,255,000	44,871,000	384,000	
当期収支差額(A)-(C)	215,000	-1,161,000	1,376,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,349,391	7,197,572	11,151,819	

昭和 62 年度事業報告

(62. 4. 1~63. 3. 31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、講習会及び展覧会の開催

(1) 集会

4月15日 報告会「北朝鮮冬季登山」 今井 通子 本会
 4月19日 新入会員との日帰りハイク 高尾山

田代池の白樺	油変形6	中村清太郎	談話室
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊豆半島	油 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠	油 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギ ントワイト	図 書 室
ユングフラウ	油	山里 寿男	集 会 室
潤沢より北穂高	水彩 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談話室
北穂高滝谷	油 25	足立源一郎	談話室
或朝の槍ヶ岳	油 25	足立源一郎	集 会 室
北穂高岳主峰	油 25	足立源一郎	談話室
槍ヶ岳	油 P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチエの僧院	水彩 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シュルパニの親子	水彩 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水彩	渡辺 九郎	事 務 室

※他の絵画、写真省略

3. フィルム

「マナスルに立つ」他 62 点

社団法人 日本山岳会 昭和 62 年度収支計算書、正味財産増減
 計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認
 めます。

昭和 63 年 4 月 11 日

社団法人 日本山岳会

監事 山本健一郎

監事 太田 敬

収 支 予 算 書

昭和 63 年 4 月 1 日から昭和 64 年 3 月 31 日まで

科 目	予 算 額	前 年 度 額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産 利息収入	350,000	400,000	-50,000	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,000,000	0	
通常会費収入	37,710,000	36,100,000	1,610,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	40,710,000	39,100,000	1,610,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,100,000	1,000,000	100,000	
印税収入	30,000	30,000	0	
刊行物売上収入	500,000	450,000	50,000	
その他事業収入	500,000	500,000	0	
山研使用料収入	1,380,000	1,380,000	0	
事業収入計	3,510,000	3,360,000	150,000	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
5. 雑収入				
受取利息	500,000	200,000	300,000	
雑収入	400,000	350,000	50,000	
雑収入計	900,000	550,000	350,000	

- ## (2) 研究会

- * 登山医学に関する講演会(中・高年登山者の生理的特性、スキー骨折と靴の関係、その他) 本会 未定
- * 内外登山家による講演会、映画会 本会他 6月他
- * 海外の山に関する講演会 本会他 未定
- * 「海外遠征時の雪崩体験」講演会 本会 未定
- 2. 登山施設の改善、その他登山のための適切な事業
 - * 上高地山岳研究所の開設 4月～10月
 - * 山岳と登山に関する科学文献整理(山の科学文献目録追補作成)
 - * 山に関する貴重なフィルム、スライド、テープ、アルバム等の複製および貴重な資料の収集、整備、管理
 - * 英文「日本の山」ガイドブック編纂
- 3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 - * 雪または氷上訓練 谷川岳、富士山 4, 6, 11月
 - * 岩場での遭難救助訓練 6月
 - * 夏山診療所の開設(槍ヶ岳他) 7月～8月
 - * 技術講習会の開催(冬山、岩登り、山スキー等)
 - * 高層気象、雪崩についての講演会 10, 11月
 - * 高所登山時の事故防止についてのシンポジウム
- 4. 自然保護活動の推進
 - * 自然保護全国集会 上高地 9月 3, 4日
 - * 自然観察山行 未定 数回
 - * 自然保護に関する講演会 未定 3回
 - * 自然環境保全のための現地視察 未定 未定
 - * 自然保護教育研修会 未定 未定
- 5. 海外登山の企画および実施
 - * 日中ネ三国チョモランマ/サガルマタ合同登山の実施(継続)
 - * 日韓大学交流登山の実施
 - * インドヒマラヤ・シバ峰登山およびトレッキング 7月20日～8月24日
- 6. 機関誌などの発行
 - * 「山岳」第83年(1988年)号の発行
 - * 会報「山」第514号～第525号の発行
 - * 「山日記」1989年版編集発行
 - * 「登山医学」第8巻の発行
- 7. 国内および外国山岳団体との連絡、情報交換
 - * 国内関係団体(日山協、都岳連、その他)との密接な連絡
 - * 海外登山団体との機関誌および情報の交換
 - * アメリカ山岳会、ソ連山岳連盟、チェコ山岳連盟との交流
 - * 韓日大学交流登山隊の訪日
- 8. その他目的を達成するために必要な事業
 - * 世界岳人名簿の整理
 - * 山岳図書拡充をはかる
 - * その他目的を達成するために必要な事業を行う

- 6. 機関誌などの発行
 - * 「山岳」82年(1987年)号発行
 - * 会報「山」502～513号の発行
 - * 「山日記」昭和1988年版発行
- 7. 目的を同じくする海外山岳会、団体との情報交換
 - * 14カ国19団体との情報交換

昭和63年度事業計画

(63. 4. 1～64. 3. 31)

- 1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

- * 小集会(報告会、講習会、シンポジウム、山行)
 - 本会他 約40回
 - 富士山 4月16～18日
- * 雪上訓練 5月
- * スキー登山講習会 上高地 6月4, 5日
- * 第42回ウェストン祭 本会 6月7日他
- * フィルム映写会(国内、海外) 奥多摩 6月
- * 沢登り講習会 小川山 6月
- * 岩登り講習会 北海道 7月16, 17日
- * 全国支部懇談会 " "
- * 支部事務局担当者会議 本会 6月18日
- * 日中ネ三国友好登山報告会 本会 10月
- * 第21回「山岳図書交換会」 城ヶ崎 10月
- * 岩登り講習会 小安岳 10月
- * 東北ブロック集会 皇居周辺 11月
- * マラソン大会 私学会館 12月3日
- * 年次晩餐会 本会 2月
- * 第20回「山岳図書を語る夕べ」 八ヶ岳 2月
- * アイスクライミング講習会 本会 3月
- * 第17回「山岳史懇談会」 未定 3月
- * 山スキー講習会 本会他 未定
- * 来日登山家との交換会 本会 3月
- * 新入会員オリエンテーション

(ロ) 研究会

- * 危険な動物と安全登山についてのシンポジウム 本会 4月16日
- * 第8回登山医学シンポジウム 水上 6月
- * 高所登山時における事故防止についてのシンポジウム 未定
- * セミナーの実施
- * 高山植物と高山蝶観察(探索山行)

(ハ) 展覧会

- * 第26回「この一本展」 本会 2月

(ニ) 講演会

- * 登山、山岳の科学研究に関する講演会

(7ページより続く)

川森左智子(三〇〇七)

5・20

姓名変更

亀岡ちえ(一〇〇八九) ↓坂野ちえ

終身会員へ

中 保 (四七二六)

蔡 禮 楽 (四〇七一)

秋月良造 (二五五五)

的場大祐 (二六六七)

海外出張

梶 正彦(六六七六) オーストラリア

三國友好登山会募金応募者(芳名)

(六月十五日現在、一口五千円)

(二口) 谷口現吉、前嶋信、滝越之。

(一口) 田畑真一、川井耿子

【累計 一、九三九・二二〇・八五四名。金額 九、六九五、六〇〇円】

◎三國友好登山成功記念

ヒマラヤ展のご案内

(資料委員会)

この度大町山岳博物館では本会等後援のもと、「ヒマラヤ展」一八〇〇米峰と日本登山隊」と題して、左記の通りヒマラヤ特別展を開催します。マナスルはじめ十四座の八〇〇〇米に挑んだ日本隊の記録と、今回のチョモランマ峰友好登山の写真、装備などが公開されます。夏山登山の帰途などに是非ご覧下さい。

観光週間(八月一日～七日)の目的

- ①観光地の美化(ゴミの持ち帰り)
- ②正しい観光観念の普及(国際交流にも資する点)
- ③その他(観光客を交通事故、火災事故等から守る)

記

場所 大町市

大町山岳博物館

期間 昭和六十三年

七月十六日(土)～

九月十五日(祝)

展示内容

第一部 日本隊八〇〇

○米峰登頂

総務委員会

第二部 チョモランマ峰三国友好登山

◎63年図書交換会

お知らせ

恒例の図書交換会を十月二十二日(土)午後二時より本会ルームで行ないます。
もうこの本は要らないな、と思われる本をお持ちの方は当委員会へご連絡下さい。

図書委員会

お知らせ

◎JAC夏の恒例・

ビアパーティ

日時 九月三日(土)

十七時より

場所 日本山岳会 集會室

会費 二〇〇〇円

飲み放題食べ放題!!

主催 婦人懇談会

婦人懇談会

編集後記 六月二日夜、吉田宏会員のお宅でAAJの元編集長、カーター氏と話した。彼は教師をしながらAAJの編集を、ボランティアとして続けたという。奥さんの内助の功もあっただろうが、誇らかに教師だと本業を言う彼の目の輝きをみて、自由主義の意味とアメリカ合衆国という国を、改めて考えさせられた。(〇)

昭和六十三年七月二十日発行
102 東京都千代田区四番町五一四
サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会

発行者 今西寿雄

編集代表 岡沢祐吉

電話東京(〇三)四四三三

振替口座 東京三〇八二九番

東京都港区赤坂一三三六

赤坂グレースビル

印刷所 株式会社技報堂